

新年の夢



こぶしをあげる

宮浦 高棟 龍生

みいけの
半の生で生れ
たふしへ
未来に向って
燃えあがる 炎

降りしける
雪をかき
地底に いきつきながら
お前は
みどりの力をあらしめり
太陽めがけ
べん
こぶしを つきあげる

すくも
まき
ひるます
たゆまず
こぶしを あげる

なまの
ひるます
手をつなぐ こぶしをあげる

小さな
団結をこぶし
こぶしを あげる

しあわせを つかむ
こぶしを あげる



四山 松元 望仙

寒風に斗魂秘めてビラ配る
抗移の斗魂燃やし防寒唄
抵抗の日事とてに賀状書へ
北風に抵抗踏むと港沖
陣中に斗魂燃やし暖炉燃の
港沖波風荒く多良は雪
寒月も港をうらみ浮彫に
四山 清本はるき
野火遠く心に三池の火を燃やす

説得

三川支部 木村 守

創作

三池に第二組合が発生したとき
村田は非常に失望した。しかし発
奮した。或る日第二組合にはし
った一人をつかまえて、二時間
にわたり、人間の道について知る
範圍の廣い、真心こめて説いて
滅入させた。「あなたが第二組合
に入ったのを私はとがめない、そ
れにはそれ相応の要素があるから
だろ。帰って来いと言わねえ」
三池の火線がんと子等の風仰
うすうす顔をこめて除夜の
三池の火線がんと子等の風仰
うすうす顔をこめて除夜の

三池の火線がんと子等の風仰
うすうす顔をこめて除夜の
三池の火線がんと子等の風仰
うすうす顔をこめて除夜の

鉦山をうたう

四山 岩下 竹二

きょうも仲間の足がきり取られ
た
このうは盤に抑えられ思ええ
た仲間
はって抗道をすすむ
ひたすらすすむ 陽はかきむし
られ
足は針金をのける
天盤が落ち 棒が折れる
メリメリとくすくすの抗道
鉦は、お前へけ とうう
きうの死んだ仲間のことと思え
は
足がすくむ
こわくてすくむのではない
この鉦から、資本家に対して
心から 憎しみを覚えたのだ
ペトコンと言われる私たち
アメリカの北爆があれば

主婦会の団結会ありてわがま
し分金の歌を歌える
煉炭をおこす子食つへる子に
箒をとりては庭掃く
炭塵の汗に汚れしメモ帳を灯下
にひらけ妻に聞かす
陣子貼る機に向つ水仙の花
うら見紙にのこる
娘酒下けとくれし古き友あ
り
このかたのわが詩が歌謡み返
す除夜の炬にいま妻と吾あり
「みいけ」つり「炭炭」つり
りて綴る間も新しき年来つ
ありけ

人と生きるため

三 本 線

会社のアメにたまきつて
第一組合のなまをくぐりぬ
して生きてきたが、もうが
う
きょうからは
みいけの歴史を継ぐ第一組合員
抗道の本線がまわしつづ
た
つんと張りだした胸の中で赤
い血が
たぎる
なまがまわりからつみ
おれの手をきりしめるあた
かい手
差別と生活にすりきたるくま
しい手
これが しあわせをつかむ
ほんとうの手だ
なまたちは
おれたちのことを
「勇気があったとほめてくれる
なんだがうれいようぢやあ
とはすかしかった
ほんとうのことをいって
おれたちから勇気をひきだして
くれたのは
人と生きるためについつい
みいけの抵抗のおかげなんだ
これからおくれいよううん

おれは
会社のあつち
第二組合幹部のどらなさが
たまになかった
はじめのうちは、クビになるこ
とがえすかったが、あんまり
した仕打ちに腹が立って来た
あたりまでのことは言わたり
うん、なんの、えすかこつ
のあつちのうちは、クビになつた
クビが、えすかばかり、どれい
のうん
おれは、えすかばかり、どれい
のうん
おれは、えすかばかり、どれい
のうん



T. Mura

日光浴や換気を十分に
かえしました。「不況」物価高騰、
平和を乱す足元の高まり……と
きびしい年になりそうです。あら
ためてこの生活設計をたてま
しょう。家計簿をつけて生活の姿
をみながら検討したり、そのとき
どきの感想をそえるなど、健康で
明るく豊かな生活を築くために努
力しましょう。
○「ゆくもの」からだを健康で
美しいものに鍛えるには、毎日か
らだを大きくのびして運動するこ
と。へやの窓は一日に二、三回は
開けはなして空気を入れかえ、換
気にはじつとつづいて注意を。
○春闘も、物価値上げ反対を
たたかいの柱に国民生活を守る統
一行動を強めます。がんばりまし
よう。